

平成27年度第2回木津川市総合教育会議 会議結果要旨

1. 日 時 平成28年2月1日(月)
午前9時30分 開会
午前11時03分 閉会
2. 場 所 木津川市役所4階 4-3会議室
3. 出席者 木津川市長 河井 規子
木津川市教育委員会
教育長 森永 重治
教育委員 有賀 やよい
教育委員 小松 信夫
教育委員 高橋 史代
教育委員 佐脇 貞憲
事務局
市長公室
市長公室長 尾崎 直利
市長公室次長 尾崎 元紀
教育委員会
教育部長 森本 直孝
教育部理事 中川 嗣郎
教育部次長 竹本 充代
社会教育課長 市川 寿
教育施設整備室長 石井 利樹
文化財保護室長 福井 浩文
学校教育課課長補佐 竹村 弘
4. 議事
 - (1) 木津川市教育大綱について
 - (2) 学力・生活状況の報告について
 - (3) 第1回総合教育会議で出された意見に係る事項について
 - (4) 意見交換
5. 閉会

6. 会議の要旨

○開 会

○市長あいさつ

○教育長あいさつ

○議事

(1) 木津川市教育大綱について

事務局から、資料に基づき、木津川市教育大綱を説明した。

【決 定】

構成員より異議無く、全員一致で決定した。

(2) 学力・生活状況の報告について

中川教育部理事が、資料1に基づき説明した。

補足として、資料1を平成27年12月に全保護者に配布及び市ホームページで公表し、市広報紙に掲載したことを報告した。

【質疑応答】

市 長：ステップアップ学習やホップアップ学習等の補充学習の頻度はどの程度か。

中川理事：小学校3年生から6年生を対象としたホップアップ学習事業については、大規模校で年間120時間、その他の学校で年間80時間である。

また、中学校2、3年生を対象としたステップアップ学習事業は、各校年間110時間程度実施している。

市 長：子ども達は、積極的に参加しているのか。

中川理事：補充学習が必要である児童・生徒には、担任が参加を促している。

市 長：補充学習に参加している子ども達が、他の子ども達から勉強が出来ないという目で見られていることは無いのか。

中川理事：そのような報告はない。

市 長：参加したことで学力が向上し、全国平均を上回る結果につながっているのか。

中川理事：一つの要因ではあると捉えている。

市 長：更に子ども達の学力を伸ばす改善策はあるか。

教 育 長：長期休業期間に集中して実施するか、週1回放課後に実施するかの取り組み方法は、学校現場に委ねている。

どの様に効果が上がっているかは、学校間で情報を共有する。

市 長：基礎でつまづく事が無いように、基礎学力の定着に努めていただきたい。

中川理事：ホップアップ学習事業については、昨年9月から小学校3、4年生に拡充したことにより、学校現場からは非常に効果があると報告を聞いている。また、保護者からも個別に指導を受けられてありがた

いといった声も聞いている。

市長：中位層を更に伸ばす事業等はどうか。

中川理事：そういった事業の検討は必要と考える。

教育長：現実の問題として、塾に通っている子どもが少なくない状況にあるが、塾へ行けない子どもに向けた家庭学習方法や進路に向けての計画的な家庭学習のあり方について、セミナーの開催をできないか検討している。

他市町村では、公設塾を開設している所もあるが、色々な意見もあり、まずは、塾ではどのような勉強のやり方やこういった計画の基に授業を進めているのか等、子ども達を知る機会について検討をしていきたい。

小松委員：補充学習を小学校3、4年生に拡充していただいて非常にありがたい。小学校段階では、9歳の壁と言われる抽象思考の壁がそこにあるので、内包量等でつまづく子どもが非常に多い。可能な限り補充学習の時間を増やしていただければありがたい。

市長：施設整備も重要であるが、子ども達の学力を上げるために市費を充分に投入したいと考えている。学校現場の負担にならない範囲で、つまづきを無くすことや貧困家庭でもっと勉強したいと願っている子ども達を受け入れられる制度を充実させていただきたい。

また、今後、小学校で英語教育が本格的に入ってくるが、現在の日本の英語教育では、大学まで学んでも海外でうまく会話が出来ない。優秀であっても力を発揮できずに外国の子ども達と対等に出来ないのは、非常に残念なことである。どうすれば、木津川市の子ども達が効果的に英語を学べるのかも併せて検討していただきたい。

教育長：現在は、小学校5、6年生が週1回の頻度で英語活動の時間がある。東京オリンピックが開催される2020年までには、小学校5、6年生の英語は教科化され、小学校3、4年生に英語活動の時間を充てることが予定されている。本市では、英語指導助手を増員し、小学校3年生から英語活動が行える体制となっており、英語に親しませる取り組みを進めている。

外国で子ども達が力を発揮するためには、英語力とともに日本人の持つやさしさや思いやり等の「日本人力」が必要であり、国語についても充実させる必要がある。AETやALTの方に親しみを持つのも、語学力と人間性を兼ね備えておられるからである。

有賀委員：日常的に英語を使って会話をするのが英語力の基礎となるので、AETの方を増員して週に何時間か学習時間を増やすよりも、小学校の先生が自信を持って、下手でも良いので、例えば学習活動の時間を使って積極的に英語で会話を行っていく姿勢も必要と考える。

小松委員：相楽台小学校で国際理解教育を推進していた際に感じたことだが、「英語に慣れる」、「耳から聞く」ことが重要で、日本の英語教育

は文法から入るので、英語に触れるということは非常に重要である。

(3) 第1回総合教育会議で出された意見に係る事項について

森本部長が、資料2に基づき、検討内容やその後の進捗状況などを報告した。

1. スクールカウンセラー制度の充実について
2. 地域で支える体制の充実について
3. 補充学習事業の充実について
4. 文化財と学研都市機能を活用した体験学習について
5. 保護者支援対策について

【質疑応答】

佐脇委員：スクールカウンセラーの利用状況は。

中川理事：利用希望者が増えてきており、市カウンセリングルームは常に満員の状況である。現在は、週1回であるが平成28年度からは週2回に増やせる様に予算要望を行っている。

森本部長：昨年9月から市単費で小学校にもスクールカウンセラーを配置したが、非常に多くの児童や保護者から相談を受けている。市カウンセリングルームも1か月待ちの状況である。

高橋委員：スクールカウンセラーの他に心の教育相談員を置かれている学校もあるが、これは別の枠か。

森本部長：心の教育相談員設置事業は、泉川中学校、木津中学校及び木津南中学校の3中学校区で配置しており、元教育関係者や元民生委員等に進路や友達関係、いじめ問題等の相談を受けていただいている。こちらも非常に多くの利用がある。

高橋委員：人員を増やす予定はあるのか。

森本部長：心の教育相談員とスクールカウンセラーで一定充実が図られていると認識している。

有賀委員：これまでのカウンセリングは、相談を聴くことが中心で、解決するのは本人であり、受け身の姿勢であった。今、求められているスクールカウンセラーの能力は、子どもがうまく表現できない思いを翻訳し、担任や学校、家庭との連携を図るために行動できることである。

教 育 長：スクールカウンセラー協会から各学校へ年度初めに、どのような状況で、どんなカウンセラーを希望するのかを聞いてくる。

スクールソーシャルワーカーの方については、かなり家庭にも入って行っている。

また、福祉部が開催しているケース会議がうまく機能している。主に児童虐待等において、これまで学校が抱えていた問題を各部署が情報を共有して、責任を持って分担している。

佐脇委員：ふるさと学習を実施するにあたり、受け入れいただく学研都市施設

までのバス借上げの予算措置はできているのか。

森本部長：平成28年度予算で要望している。

これまでも小・中学校においては、地域の歴史や文化財等を学習する場を設けていたが、平成28年度以降においては、ふるさと学習を重要な学習と位置付けをし、校園長会議において木津川市全体の文化財を見て学べるような授業のあり方や環境づくり、学研都市内の研究所や企業で体験学習を行うように指示をしている。

市長：木津川市域に限らず、けいはんな地域の他の研究所等も受け入れを打診されたい。

竹本次長：子ども達が学習できる場を開拓していく。

高橋委員：学校支援地域本部で支援いただいているボランティアの方は、個人で参加いただいているが、社会福祉協議会等のサークルで活動されている方にも参加いただければ、知識を活かして子ども達の支援が出来て、活動が広がるのではないかと。サークルのリスト等を学校に提供してはどうか。

森本部長：ご意見を参考にさせていただく。

教育長：学校支援地域本部や放課後子ども教室は、非常に重要であるが、行政主導では長続きしない。学校現場の理解や協力も必要だが、空き教室を地域の活動拠点にできれば、地域の方の力や能力、特技を子ども達のために活用できる。

高橋委員：先日、加茂小学校で家庭科の時間に和束町のお茶サークルの方が、お茶の入れ方教室をされており見学に訪れた。ボランティアの方が、教員の方以上の思いやり、温かさやおもてなしの心を伝えられており感動した。

市長：日本人としてお茶の入れ方を体験することは重要である。木津川市には、身近にお茶を体験できる環境があるので、活用していただきたい。

(4) 意見交換

【意見】

市長：子ども達は、学校へ携帯電話やスマートフォンは持ち込んでいるのか。報道では、SNS や LINE 等を通じて事件に巻き込まれていることがあるが、本市の状況はどうか。

有賀委員：基本的に持ち込みを禁止しているのではないかと。

高橋委員：授業中は持っていないし、基本的には持ってきていないと承知している。

教育長：持ち込みは禁止である。

市長：LINE 等でいじめに発展することもあるのではないかと。

有賀委員：いじめアンケートの自由記入欄に悪口を流されたといった回答があったのではないかと。

教育長：LINE等で、書き込みを見れば返事をしなければならないということで、1日に4、5時間拘束されて、就寝が夜中の2時頃になるといったことが非常に大きな問題である。保護者の方も子どもが部屋に閉じこもっているので把握できない。家庭での教育が大きな課題である。

市長：携帯のゲームで多額の課金利用等の被害はあるのか。

教育長：警察の方では、ゲームやアダルトの利用で多額の被害といった相談はあるが、学校に相談がある内容ではない。

市長：学校から保護者へ事例等を伝えて啓発を行っているのか。

教育長：学校でも講師を呼んで、保護者に啓発を行っている。

市長：子ども達の体力が落ちてきており、椅子にじっと座ってられない子どもが増えてきているとのことだが、本市の子ども達はどうか。

有賀委員：体力テストや持久走の記録は、落ちているのかもお聞かせ願いたい。

中川理事：資料の持ち合わせていないので、次回に報告させていただく。

高橋委員：和式トイレに座らなくなったので、股関節と太ももの筋肉が弱ってきている。今は分からなくとも、年齢を重ねていくと後の体力等に影響があると言われているがいかがか。

市長：トイレの洋式化には色々の意見があるが、公園や海外では洋式トイレが無いところもあるので、どんなことにも対応できる子どもを育てることが大事である。

和式トイレを使うことに意味があることを知れば、使うことが嫌ではなくなるかも知れない。

高橋委員：学校にも和式トイレがいくつかあるがあまり使われていない。

教育長：和式トイレが無い家庭が多いので、様々な場面を想定すれば、確かに練習は必要である。

先程の体力低下の話であるが、平成26年度のアンケートでは、「運動が好き」や「運動をもっとしたい」との回答率は高い。しかし、それが結果につながるかといえばそうではない。

市長：子ども達は、サッカーや少年野球等で活躍しているが、チームに参加しようとすれば、保護者がついて行かなければいけないことやユニフォーム等にお金がかかることで、経済的に厳しい家庭の子どもは、参加することが出来ない。その事で保護者間や子ども達の中で孤立してしまい、厳しい状況となる。何か手立てはないのか。

教育長：中学校では、クラブ活動があるが小学校ではない。難しい問題である。

市長：今は、親も仕事等に手一杯で、子どもが一人で簡単な食事をしている家庭の子ども達に、夕食の場を提供する活動をしているボランティアのグループが全国にある。きちんとした食事を家族でとることが豊かな心を育てる事につながるが、そういった対応も必要な時代になってきている。

子ども達が、一定の年齢になるまでは健やかに育てたい。

教育長：暖かい布団で、安心して眠れると言うことが最低限であるが、さまざまな家庭環境の下で、家に自分の居場所がない等の場合で、学校だけでどれだけ力になれるのかは難しいところである。

佐脇委員：学力の状況のリーフレットを公表して、反響はあったのか。

高橋委員：「子どもたちの安心・安全があつてこそ」の欄は、民生児童委員の方からは、感謝の言葉を載せていただいていたと声を聞いている。

教育長：ホームページで見られる方は少ないとは思いますが、全保護者に配布させていただいているので、保護者はご覧いただいている。

高橋委員：このリーフレットを見て感じたことだが、家庭学習をまったくしない割合が小学生より中学生の方が高くなっているのが気にかかる点である。市長も述べられた貧困問題として、中学生になれば塾代もかなり高くなるので、やめてしまったということもあるのではないのか。市の事業として実施していたチャレンジ学習は、現在も行っているのか。

森本部長：現在も市の単費で実施している。漢字検定等を受験する子どもを対象としている。

教育長：「いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思うか」や「自分には、良いところがあると思うか」と言った質問に、思わないと答えている子どもの割合は少ないが、そういった少数者に対する取組みが大きな課題である。

小松委員：「家庭で勉強をまったくしない」と回答している子どもは、アンケートを取った時点で、勉強が分からなくてしていないのか、家庭の事情で出来ないのか等についての原因を把握しているのか。

中川理事：担任は、どの子どもが「家庭で勉強をまったくしない」と回答しているかは把握しているので、対応をしていただいていると承知している。

教育長：全国学力学習状況調査は、試験の結果がどうということではなく、生活状況も含めた中で、今後どう活かすかが重要である。学校で個々の状況を分析して、保護者面談の際にきちんと返すように指導している。

事務局：体力テストの結果や全国学力学習状況調査の学校での分析については、教育委員会で整理の出来るものについて、次回に報告をさせていただきます。

次回開催については、日程調整の上、5月を目途に開催をさせていただきます。

○ 閉 会